キャラクター名
ルドヴィクス・ドラクレシュティ

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー ウロボロス	ワークス	UGNエージェントD	カヴァー	
オプショナル		年齢		性別	
覚醒	感染	衝動	嫌悪	初期侵食率	50 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	3	0	0	6		9
精神	3	0	0			3
社会	0	1	0			1

HP	27
行動値	21
(非装備時)	21
戦闘移動	26
全力移動	52

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	10		ＲＣ	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志			調達	8	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
従者の弓	
ケージブラッド	
コンバットブラッド	
アサルトライフルorスナイパーライフル	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
起原種	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 18	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
声なき者ども	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	作成従者スロット＋Ｉｖ							
赤色の従者	1	5	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	従者作成。HP[Iv*5+10]、能力値3。作成者のダイス-3							
血の絆	2	3	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	作成従者シナリオ間持続							
原初の黒：子羊の歌	1	6(4+2)	オート	視界	単体	自動	100	
効果：	対象へのダメージを自身に適応させる。							
原初の虚：氷熱の軍団	5	12(10+2)	イニシアチブ	視界	シーン（選択）	自動	120	
効果：	ラウンド間攻撃力+[Iv*4]。							
原初の黄：ファンアウト	1	4	セットアップ	至近	範囲（選択）	自動	-	
効果：	対象は戦闘移動を行う。自身対象不可							
コンセントレイト：ブラム=ストーカー	1	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-Iv（下限値7）							
愚者の兵装	3	3	常時	至近	自身	自動	従者専用	
効果：	従者は専用アイテムをIv個取得。従者の弓・コンバットブラッド・ケージブラッド							
滅びの一矢	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	ダイス+[Iv+1]、ＨＰ２点消費							
ブラッドリーディング	★							
効果：								
：ディメンジョンゲード	★							
効果：	イージーフェイカーで取得。従者の持つ能力の１つ。							
効果：								
効果：								

「ルドヴィクス・ドラクレシュティ。あぁ、名乗る必要はない。貴様の名が覚えるに足る物かどうかは俺が決める。」

誕生日　：5月10日
好きな物　：静かな空間、管理、家族
嫌いな物　：感情的な人間の行動、反乱、
一人称：俺　二人称：貴様・お前・００（名字呼び）
imagesong　：

■経歴
日本における７つが特別支部の１つ、秩序調律都市・天□（フェグダ）の副官にてドラクレシュティ家長男。
ワラキア領主の血統であり、姉が１人、弟妹に６人を持つ。長男であるため跡継ぎ候補ではあったものの、代々輪廻の獣を継承するドレクレシュティ家において彼よりも姉のヴァシリッサ・ドラクレシュティの方がその適性が高かったため、彼が領主になる事はなくその獣を継ぐこともなかった。
しかし姉に劣るものの、代々輪廻の獣を継承する家系であったため輪廻の因子は少なからず生まれつき持っており、その不死性を継いでいる。
不死性とあるが彼のソレは正確には不老性。輪廻の継承者ではないため、老いることは無いものの死から蘇ることはできない。
５００から６００年前ほど前、ヴァシリッサがワラキアの領主となりそれに合わせ彼も統治者、管理者として国を統べることになる。
ヴァシリッサがいる際にはその補佐をしつつ主に軍の指揮、将として立ち、彼女が席を空ける場合はその代わりに領主代理として国を統治した。
人々を統べ、扱う管理の能力に関しては無二の才を誇り、事実結果がどうであれ大局的な目で見れば彼の指揮、統治に不必要な運用は１つもなかったと評される。
しかし彼は管理者であっても王ではないため、統べることはできても導くことには向いていなかった。
そのため彼が統治した国では反乱が起こることも少なくなく、その要因においても彼自身把握していることであったためヴァシリッサが統治した国においては事